

# ふるさと創生事業

## 見て触って肌で感じた韓国

油谷町ふるさと創生事業の一環として、海外派遣（韓国）の児童、生徒が元気で帰ってきました。

参加した全員に、海外研修の体験、感想文を書いてもらいましたので、その作文を、小学生と中学生の二回に分けて紹介します。（なお、この旅行の主催であるテレビ山口の体験作文募集に応募し、佳作に伊上小・入江玲子さん、文洋小・小池智宏君、川尻小・花藤陽介君、油谷中・中島直樹君の四人が入選しました。

### 日韓友好「TYS少年の船」に参加して

油谷小六年 濱谷孝次

十九日の夕方五時、関釜フェリーで下関港を紙テープで別れをおしみながら、韓国へむかって出航しました。

ぼくは、始めての海外旅行でワクワクしていました。船の中では、友達もたくさんで

きて韓国に着くのが楽しみでした。

あくる日、目がさめたら待っていた釜山港が見えていました。

下船して、「国連墓地」を見学し、山口県では県庁と同じ慶尚南道庁を訪問、それから日韓少年少女大交流会では、「歌」を歌ったり「ゲーム」をしたり、「ダンス」「O×クイズ」もありました。名刺交換では、三人の友達にあげる事が出来ました。その時、家で覚えてきた言葉がスムーズに出ました。とてもうれしかったです。韓国の友達が「ガムいる？」と手まねで言ってくれたのでぼくも、「うんいる」と態度でつたえて、ガムと名刺を交換した時は、言

葉は、ちがっても顔と顔で話ができるんだと思ったら人間は、みんな友達なんだと感じました。

三日目は、仏国寺や国立博物館そして、山のような王様の墓の「古墳」や「遺せき」がある天馬塚を見学しました。それから七時間もかかってソウルに着きました。長い長いバスの旅でした。

帰りの「特急セマウル号」の時の方がゆれがあったのでまだきつかった。

四日目は、ソウルオリンピックピククがあった、「オリンピックスタジアム」に行きました。広くて大きいのでびっくりしました。

観客席に立つと「ウアー」と言う声が聞こえてきたような気がしました。

「あそこでカールルイスが走ったんだな」と思ったら感動しました。

どこもいろいろあったけど、一番楽しかった所はやっぱり「ロッテワールド」です。ここでは、おもいっきり遊びました。自由時間だったので、ショッピングもしました。

ぼくの目で見た韓国や友達、一生わすれられないと思います。

夜と昼の気温が冬と夏のようみなに見せたいほどきれいだった夜景。

ただ一つ困った事は、食事でした。なれてないからです。

また船で弁当を運んだりホテルで室長をしたり、他の学校の友達とニックネームをつけてさわいだ思い出も「TYS少年の船」に参加してつく事ができました。

ぼくたちの旅行にいろいろしていただいた皆さんの人たちに「ありがとうございました」とお礼をいいたいと思います。

伊上小六年

入江玲子

八月十九日、私は下関港をたち、八月二十四日、下関港へ帰ってきた。

八月二十日の大交流会の日、私は喜びにむねをはずませ会



場へ入っていった。かんこくの人たちは、二つにわかれて道をつくり、はく手でむかえてくれた。かんこくの人といっても日本人とほとんどかわらなかつたし、私には、かんこくの人が笑顔でむかえてくれたことが一番うれしかった。ジャンケンむかでをしたり、ジャンカをおどったり、はじめのちょっとした不安はずぐにふきとんでいってしまった。みんなで遊んでいると、まるで昔からの友だちのように思えた。交流会では、日本もかんこくもなく、みんな、みんな一つの輪になっていたような気がする。私たちが帰るとき、また二つにわかれ道をつくってくれた。こんどは男子とも女子ともあく手をしながら帰った。私は、このことを一生忘れないだろう。かんこくのものみんなの笑顔もきつと、

